



隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小
～ 明日が楽しみな学校をめざして ～」

隈府小学校
学校だより No.9
文責 芹川博文
6月12日(金)

よく学び よく遊ぶ とともに「没頭」

～ 朝の姿 授業中の姿から ～



子どもたちの中には、「朝がいのち」の子もいるようです。たまたま通りかかった3年生の教室では、登校した子から順に宿題の答え合わせが始まっていた（左の写真）。中には急いでいる子がいます。朝からの「ひと遊び」を楽しみにしている様子です。運動場ではたくさん子どもたちが外で遊んでいました（中央の写真）。昼休みと同様、この朝の時間の「没頭タイム」が子どもたちにとって大事です。遊びを終え、教室に入る子どもたちの笑顔と光る汗が証明しています。

もちろん授業でも「没頭タイム」を目指します（右の写真）。誰一人「ぼーっとタイム」になることなく、考え伝え合う学び、「好き」「分かる」が増える学びをめざします。これから到来する時代は、「単なる暗記知識」はAIロボットが担うとのこと。人でしかできない、例えば、五感を働かせて考え行動する力や、他の人と対話しながら新たな発想で創り上げる力が求められると言われます。いわゆる「社会性」「相手意識」の非認知能力も、学校という場で育まれます。

子どもたちが学校で繰り広げる学びや遊び。共に大切な「土台」となることを願います。

公道を自転「車」で運転するということ

～ 3年生の自転車教室から ～

3年生の自転車教室では、沢山の保護者の方にも来ていただき、真剣な学習ができました。本当にありがとうございました。

忘れられない記憶があります。同じ地区の上級生が、自転車に乗っていて亡くなるという交通事故が起きました。「友達の家に遊びに行った帰り、その友達の家の坂道を自転車に乗って下り、車道に出た瞬間、来ていたバスにはねられた」と、聞きました。その事故を伝えるテレビのニュース、ご両親のいたたまれない表情など、断片的であっても強烈な記憶として今も残っています。

「行ってきます」と言って、「ただいま」と言って家に帰る「当たり前」の日常の大切さ。自転車のハンドルを握って公道を運転する責任の重さ。どうかご家庭でも話題にされてください。



傘の思い出

朝、4年生の子が、「今日は午後から降水確率80%です」と、傘を持ってきていました。自分で判断して持ってきた様子。しっかりしているなあ、と感心させられました。

傘にまつわる思い出があります。学校の「置き傘」もない当時、我が家に自分の傘は1本のみでした。小学校に傘を忘れた翌日、朝から土砂降り。残る傘は母親の花柄の傘のみ。叱られながら借りたものの、当時の私は花柄の傘が恥ずかしくてたまりませんでした。忘れた自分が悔しくもあり、泣きながら登校していたその時、兄が自分の傘と替えてくれました。花柄の傘をさす兄の後ろ姿が、とても大きく見えました。

